

令和4年度秩父市オンライン連載

## 「秩父氏」をたどる ～その足跡そして現在へ～

秩父市教育委員会文化財保護課

### 第2回 遺跡・寺院からみた秩父氏

#### 1 秩父氏館跡

諸説ありますが、秩父牧の別当・武基の子である武綱が秩父市下吉田の鶴窪台地上に居を構えたと伝わっています。そこは現在の市立吉田小学校が建てられている場所で、秩父氏館跡として県の旧跡に指定されています。台地のまわりには吉田川が流れており、敵が外から攻めづらい典型的な武士の居館として機能していたと考えられます。そして、武綱のあとこの館に住み着いたとされる重綱は、やがて秩父を離れ山を越えた男衾郡畠山郷（現深谷市畠山）に移っていきます。

秩父氏館跡の現在は、吉田小学校が建てられており、その痕跡を詳しく知ることは叶いません。しかしながら、『新編武蔵風土記稿』や『武蔵国郡村誌』などにはこの地に館があったことを示す記載があり、秩父氏が別当としての地位を確立し、その存在が広く知られていた証拠といえるのではないのでしょうか。

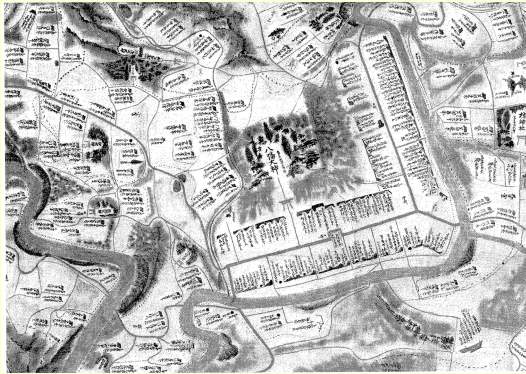


図1 秩父氏館跡図（明治四年作図）

※出典元:『吉田町史』付録「下吉田村古地図」



写真1 秩父氏館跡（現・吉田小学校）遠景

## 2 金剛院

金剛院は、秩父氏館跡から西に1.5 kmほど離れた赤芝の地にあります。もとは良弁ろうべん僧正そうじょうが宝亀4（773）年に華嚴宗けごんしゅうの古刹こさつとして開いたと伝えられており、その後武綱が開祖として整備をしました。現在は曹洞宗となっており、武綱の位牌や五輪塔の他、さらに重忠しげただの位牌も残されています。

また、重綱は畠山に移り住んだ後に吉田の椋神社むくじんじやを勧請かんじょうして、「井椋神社いぐらじんじや」を建てました。このように、秩父氏の家系はここ秩父を離れたあとも思い入れがあったことが随所で見られます。



写真2 金剛院全景



写真3 秩父武綱の五輪塔

### 参考文献

埼玉県嵐山史跡の博物館 2010 『秩父平氏 畠山重忠とその時代』

吉田町教育委員会 2001 『秩父・中世吉田町の城'01』